

**骨材情報紙**

**アグリゲイト**

aggregate

1月14日(月)号

**骨材企業は今**

～現状と今後の課題～

現状と方針を紹介する。

現況と方針を紹介する。

**東京石灰工業**

東京石灰工業は、グループ会社の岩間砕石を含む5工場を新JIS A50 Q5(コンクリート用砕石および砕砂)の認証を取得、建材試験センター(東京都)で11月20日に認証授与式が行われた。株式会社は「JISを順守し、ユーザーに選択される製品を製造していく」と方針を示した。「骨材企業は今」では、さらなる品質向上を目標とするとともに、安全管理、環境対策、人材育成などに鋭意取り組む同社の現状と方針を紹介する。

**若手社員の育成に注力**

**【概要】**

東京石灰工業は、04年、栃木県鹿沼市(現佐野市)で東武開発(株)で設立した、選別用骨材を安定供給するため4年間に発生工場を開設。翌年、社名を東京石灰工業に変更する。58年の仙台工場開設を皮切りに、石岡工場(64年・茨城



菊池宏行社長

石岡工場砕石プラント



**会社データ**

設立	1941年	資本金	4000万円
本社	東京都池袋区	従業員	133人
支店	茨城県鹿沼市	代表取締役	菊池宏行
工場	茨城県石岡市	代表取締役	菊池宏行
工場	茨城県鹿沼市	代表取締役	菊池宏行
工場	茨城県鹿沼市	代表取締役	菊池宏行
工場	茨城県鹿沼市	代表取締役	菊池宏行

**ユーザーに満足される製品を**

同社は単機、または重機メーカーをパートナーとし、現在までに「鉱山機械の無人化」「破砕選別プラントの無人制御技術」「移動式プラントの導入」「火災管理ソフト」などの先進技術を開発。特に「機械管理ソフト」は、重機の稼働状況を

石岡工場採石場



**若手で安全衛生推進委を組織**

同社は安全管理、環境保全、人材育成を重点項目として掲げている。これらは、若手社員で構成される委員会を中心に取り組みが改められている。安全衛生推進委員会では労働災害を根絶するため、各工場の若手



同社は昨年、薄利系インクジェットマシンを独自デザインで製作している。これらを各工場の操作室、プラント、倉庫などに設置する事で、業務の効率化や安全対策の徹底を図っている。

**設立している。**

また、採取場開発の立案時には、社内の人材が地表調査や地質調査や岩質などを推定、それを元に安全や自然環境保全を考慮し、CADシミュレーションなどを利用して開発計画する。また、営業担当者はユーザーからの品質要望を受け、品質管理グループへ改善提案をし、最終的にユーザーに満足される製品を供給している。

社員を中心に40人ほどで、主力6工場を視察、危険箇所について協議し改善することで、労働環境の安全性確保に努めている。すべての工場では、開車の走路などをレンガ

を導入。砕石工場に必要とされる安全対策、機械の操作マニュアルなど約100種類の看板を独自デザイン

ト工場の管理を徹底するため、品質管理グループを設置。主力6工場に専門知識を持つ社員を配置している。

砕石の採掘からユーザーに届けるまでが同社の品質管理。品質管理責任者が中心になり、品質の社内標準化と品質管理が組織的に円滑に推進されるよう教育の徹底を図っている。

また、営業担当者はユーザーからの品質要望を受け、品質管理グループへ改善提案をし、最終的にユーザーに満足される製品を供給している。

同社は安全管理、環境保全、人材育成を重点項目として掲げている。これらは、若手社員で構成される委員会を中心に取り組みが改められている。安全衛生推進委員会では労働災害を根絶するため、各工場の若手

同社は安全管理、環境保全、人材育成を重点項目として掲げている。これらは、若手社員で構成される委員会を中心に取り組みが改められている。安全衛生推進委員会では労働災害を根絶するため、各工場の若手

同社は安全管理、環境保全、人材育成を重点項目として掲げている。これらは、若手社員で構成される委員会を中心に取り組みが改められている。安全衛生推進委員会では労働災害を根絶するため、各工場の若手